

# 自転車の交通ルール学ぶ

## 名水小自動車学校で安全教室

延岡

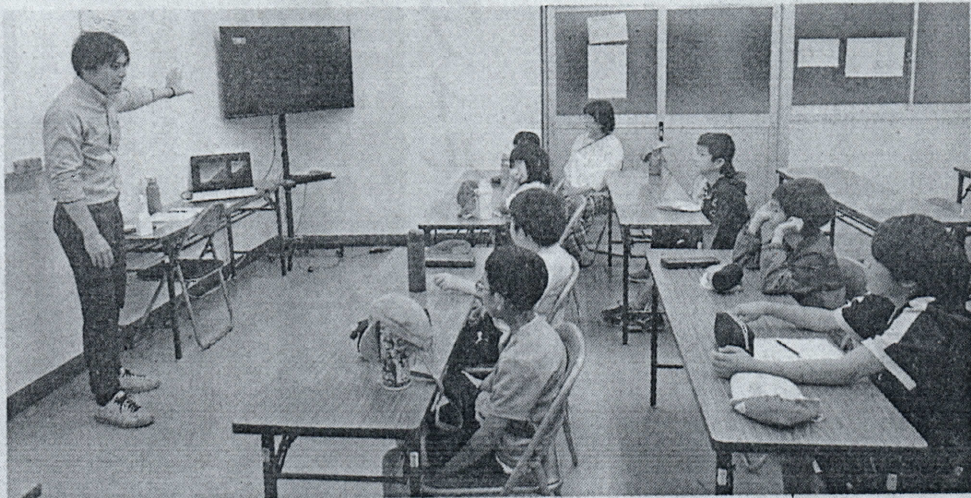
延岡市立名水小学校(宮本英一郎校長)は22日、東九州自動車学校(土々呂町)で交通安全教室を開いた。全校児童

9人が参加。子どもが絡む自転車事故が増えていることを踏まえ、自転車の安全利用・交通ルールを中心に学んだ。

講師は、同自動車学校の教習指導員新名翔さん(37)。児童はまず、自転車事故をテーマにしたビデオを鑑賞。内容は、自転車に乗った男の子が目的地まで急ぐあまり、道中で高齢者をはねてしまい、その高齢者は意識不明の状態で損害賠償請求も予想される——というもので、男の子の運転はここが危険であったのかを考えた。

新名さんは「自転車も車の仲間」と強調。その上で、「自分たちがけがをするだけでなく、けがをさせてしまうこともあるということを知っておいて」と呼び掛けた。続いて学んだのは、名水小学校区にも多い信号機のない横断歩道の渡り方。新名さんは「自転車で渡る時は一度降りて左右を確認してから手を挙げて渡る」とアドバイスし、「こうすれば安全かを考えることが大事。自分の命は自分で守って。最後に「学んだことをおうちの人も伝えてほしい。交通ルールを守るこ

とは大切な命を守ることにつながる」と締めくくった。児童を代表して、松本凧さん(6年)が「教えてもらった自転車のルールを守って、自分だけでなく、他の人の命も守りたいと思った」と感想。終了後、帰りのバスが止まっている駐車場へ向かう子どもたちは早速、教わったことを実践。手を挙げて安全を確認しながら、横断歩道を渡っていた。



東九州自動車学校の教習指導員から自転車の安全利用などについて学ぶ名水の児童



実際の横断歩道で、交通安全教室で教わったことを実践する児童